

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400664		
法人名	株式会社 おおこし		
事業所名	グループホーム ひだまりの家		
所在地	千葉県若葉区東寺山町1067-9		
自己評価作成日	平成26年9月30日	評価結果市町村受理日	平成27年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成26年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご家族・利用者様の希望に応えながら、楽しく安心して生活出来る支援。地域住民に理解してもらえるように、行事等で交流を深めていく。利用者様が病気や怪我等起きた時の迅速な対応。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は地域との交流を大切にしている。ホームの夏祭りには地域の子どもや住民の参加があるほか、自治会の役員がホーム前道路の交通整理を買って出るなど地域住民と協力関係ができています。複合施設であり、併設のデイサービスのホールを自治会のシニア会のカラオケの場として提供し、ホームの利用者も共に楽しんでいる。また、提携医の毎月の往診や月3回の訪問看護、近隣の総合病院と連携した夜間緊急時の受け入れなどの体制を作り、利用者の健康面と安全面を支えている。職員と利用者、職員同士が良好な関係であり、理念でもある「安心と安らぎのある生活」をチームで支援しようと努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ひだまりの家としての基本理念を職員が見やすい所に掲示し、各職員が理念を意識した実践に取り組んでいる。	「個人を尊重し、安心と安らぎのある生活」など3つの基本理念を掲げ、各ユニットに掲示し職員がいつでも確認することができようになっている。管理者は会議などで唱和することも検討している。	会議やカンファレンスなどで理念について話し合い、ホームの目指していることを改めて確認することで共通認識を持ち、サービスを検証するなどの取り組みが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会シニア会のカラオケに施設を提供し、利用者も参加しながら交流を深めている。また、夏祭り・芋煮会・町内清掃・地域の防災訓練に参加して交流を深めている。推進会議にも地域の代表者に参加して頂いている。	併設のデイサービスのホールを自治会のシニア会にカラオケの場として提供し、ホームの利用者も一緒に楽しんでいる。また、ホームの夏祭りや芋煮会などの行事には地域住民の協力や参加がある。ハロウィンには地区の子ども会が立ち寄り、利用者にメッセージカードを置いていくなど、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や地域の人々を交えた行事の時に認知症への理解をして頂けるように努めたり、日々の散歩等で理解をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度推進会議を行い施設の現状報告や地域の情報交換の場として活用し、施設及び地域の向上に向けて意見を出し合っている。ただし、利用者の家族の参加がないので、気軽に参加出来るように検討していく。	自治会長、シニア会会員、民生委員、地域包括支援センター職員などの参加で定期的開催し、ホームの現状や地域の情報交換を行っている。自治会の敬老会に施設のホールを使用してもらったらどうかなど、参加者全員が発言し双方向の会議となっている。	多彩なメンバーで会議が行われているが家族の参加がみられない。家族に参加を促す働きかけを行い、多くの意見をサービス向上に活かすことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問等出た時は躊躇せず市の担当者に連絡を取ったり、月に1度生活相談員が施設を訪問するので、利用者・職員と話し合う場を設けている。	利用者の区分変更の代行などでケアマネジャーが担当窓口を訪問している。その他、担当課にその都度連絡を取るなどしている。また、介護相談員を受け入れるなど、市との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在1部玄関の施錠をしている所がある。今後は利用者の状況を踏まえ開錠できるように取り組みたい。	身体拘束をしないケアに努めており、各ユニットの内部研修でも具体的な事例をもとに学んでいる。特に行動を制限する言葉が拘束に当たるとして周知をしている。一部ユニットでは施錠をしているが時間帯で開錠することを検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行かれた職員がユニット会議等を通じて虐待の内容を理解して、虐待防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいるので理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず説明をしている。疑問がある場合は理解してもらえるように説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に対して利用者や家族が気軽に意見・要望を伝えられる体制は作っている。	家族の意見は来訪時や電話、担当者会議などで聞き取っている。職員の名前と写真を掲示して欲しいとの要望があり、名札を付けることで対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者会議やユニット会議を通じ職員の意見や提案を聞く機会を設け、出来ることは改善している。	責任者会議、ユニット会議のほか普段の業務のなかでも随時職員の意見を聞くようにしている。また、法人代表の定期的な個別面談もある。職員の意見をもとに巡回チェック表を、全ユニット統一した書式に変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の意見も代表者は聞く耳を持ってくれて、やりがいのある職場作りに努めている。また、年1回の昇給もあり、年2回の賞与も前を下回る事はない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や勉強会に行く機会を設けてくれる。 施設内研修も行い個々のスキルアップする為の環境も整えてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設に定期的に訪問し情報収集に努めている。夏祭りにも招待し交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から良く話を聞いて、安心して生活出来るように各職員にも家族の要望を伝え、信頼出来る関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の悩み・不安・要望等細かく聞き、各職員とも話し合い信頼が保てる関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が何を望んでいるのか？また本人の状態を見極め必要な支援をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は職員と共に行い、出来る能力を持続させながら、時には頼り・頼られる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話等で本人の状況を伝えたり、いつでも家族が遊びに来れる環境を作り、共に支え合う環境を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に家族の了解を得て本人の友人等も気兼ねなく会いに来れるようにしている。盆や正月にはご自宅に帰れるようにように努めている。	知人や同級生が訪ねてきたり、家族の支援で墓参りや美容院へ行ったり、近所の知り合いと外出する利用者もいる。また、いつも利用している店での買い物にも同行するなど、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活してきた環境がバラバラなので職員が輪に入り、利用者同士の関係が確立していくよう支援している。利用者同士で支え合いながら、信頼関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム退所後も必要に応じ相談・援助は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族から生活習慣・生活歴等を聞き、出来るだけ希望に添えるケアをしている。困難な場合は家族と相談して検討している。	契約時にこれまでの暮らし方や本人、家族の思いや希望を確認し、入所後は職員が話しかけたり、表情から思いを察知している。情報は職員間で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時はもちろん、入所後も日常の会話から生活歴や暮らし方、趣味等を聞き出し各職員と共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態や有する能力を発見した時は各職員と情報を共有している。他ユニットの情報も毎朝の申し送りで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で職員の意見を聞き課題等話し合い、また家族の意見・要望も聞き入れ本人に最適な介護計画を作成している。	3か月毎のモニタリング、6か月毎の評価で目標計画の見直しを行い、毎年介護計画を作成している。また、日常的な支援の中で利用者の状態の変化に気づいた場合は、職員間で話し合い本人の状態に即したケアに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が読んでも様子が分かるように記録を取るようになっている。日常と違う出来事は記録だけでなく、必ず口頭で情報を共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わる状況に対応できる体制はとっている。型にはまったサービスにとらわれず柔軟な支援が出来る体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会・シニア会・子供会との交流により地域と支え合いながら安全で豊かな暮らしが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月1回の往診と緊急時には電話で相談し、支持を仰いでもらい健康管理に努めている。 総合病院とも医療連携を結んでいるので、夜間急変時も受け入れてもらえる支援をしている	協力医療機関の主治医による月1回の往診のほかに月3回の訪問看護により健康管理を行っている。かかりつけ医への定期的な受診希望者には、通院同行しており、結果は家族や職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に月3回訪問して頂き、利用者の状態を伝え適切なアドバイスをしてもらるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族の対応になるが、定期的の様子を見に行き看護師やソーシャルワーカーから情報を得ている。また、家族からもこまめに話を聞き状況によっては、先生との話の時に同席するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針は早期に家族と話し合い、家族の希望を聞き今後の対応に向けて相談している。また、主治医を交えて情報の共有をし支援に取り組んでいる。	契約時に「ターミナルケア依頼書」を家族と交わし、重度化や終末期の在り方を確認している。ホームは看取りの経験もあることから本人、家族の思いを尊重した支援に取り組んでおり、その都度本人、家族、医療機関と連携を図りながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	前回の救命救急講習から期間が開いてしまっていて、実践力には不安がある。しかし、リーダー等不在の場合でも直ぐに連絡をして、対応の指示を仰いでもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は推進会議で自治会に協力の依頼はしているが、全職員が避難方法を把握していないと思うので、訓練や会議等で把握出来るようにしていきたい。	消防署員立ち会いの消防訓練と自主避難訓練を実施している。避難経路については職員間で確認している。地域との関係も良好で、自治会主催の訓練にも参加し、火災時の協力を依頼している。	地震や火災、日中や夜間など様々な場面を想定した訓練を、利用者及び全職員が参加し実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症状が酷くても個々の人格は尊重している。声掛けや対応もプライバシーの侵害にならない様に配慮している。	職員は、家族が聞いた時に失礼だと感じない呼び方をしようと心がけている。一人ひとりの誇りを損ねないように声かけや話す言葉には注意をしている。利用者の生活習慣や環境に配慮し、言葉を選んで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ利用者の思いや希望に応じてあげたいが、状況に応じて無理な時が出てしまう。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた支援を心掛けているが、業務を優先してしまう時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	食べこぼしの汚れがある時は着替えを促したり、外出や誕生会の時は化粧をしたり、身だしなみも心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付け等出来る事は利用者と一緒に、職員も同席して同じ食事を一緒に食べている。	食材は業者から調達し、調理は専門職員を配置しているが、汁物とご飯は各ユニットで調理している。テーブル拭きや下膳等は利用者が行い、持っている能力を発揮できる場としている。野菜を育て収穫物で漬物を作るなど食が楽しみの一つになるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の少ない利用者はチェック表にて全職員が把握出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの促しや介助は必ず行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自らの意志で排泄出来ない利用者には、チェック表を付けて排泄パターンを把握しトイレ誘導をして、失禁を減らすようにしている。	排泄チェック表を用いて利用者の排泄パターンを把握して、誘導している。失禁したからといって、すぐオムツ使用にならないように、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操を日々の習慣に取り入れて便秘予防をしている。それでも解消されない場合は、主治医に指示を仰ぎ便秘薬の処方をしてもらう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日と時間は決まっている。その中でプライバシーを保ちながら、入浴を楽しんでもらっている。	ユニットごとに曜日、時間帯を設定して、週3回は入浴できるよう支援している。車いすや自立で入浴できない利用者には職員2人体制にしている。また、入浴できない場合は清拭やシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している利用者は自由に居室へ行き休息したりしている。自力歩行が出来ない・意思が伝えられない利用者は、利用者の状態を観察して休息を取れる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が把握出来るようにケース記録にファイルしており、誤薬が無いように管理して服用するまで見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で利用者の好きなことを見つけ、色いろなお手伝いや楽しみを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に誘い出掛けている。また、利用者の希望にも応えて外出はしている。	近隣の散歩はよく出かけている。利用者の希望に応じて、服や誕生日のプレゼントを買いに出かけることもある。また時にはカラオケボックスなどへの外出も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どどの利用者は金銭管理が出来ないので、こちらで管理をして買い物や外食をしている。 管理できる利用者は少量のお金を持っており外出した時、自由に買い物をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をしたり、手紙もやり取りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔にしている。壁面に行事や外出した時の写真を飾ったり、皆で作った季節にあった飾り物を飾ったりしている。	大きな窓から太陽光が差し込み、温かく明るいリビングで利用者がソファで寛ぐ様子がみられた。掃除には気を配り、換気は適時行っている。手作りのタペストリーや花を飾り、季節を感じられるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが置いてあり、気の合った利用者同士が会話したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は使い慣れた家具や衣類を持ってきてもらい、レイアウトは家族や利用者任せにしている。	居室は清潔で、利用者がこれまで使用していたタンスや鏡台、位牌や遺影を持ってきている人もおり、それぞれが居心地よく過ごせるようにしている。空調や換気は利用者個々に合わせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が戸惑う事のない環境作りに努めている。		